

ニラのネダニ類に有効な薬剤

農業研究部 病害虫チーム

県内のニラには2種のネダニ類（ロビンネダニ、ネダニモドキ属の一種）が発生する。2種のネダニ類に対し農薬登録のある3薬剤による薬剤感受性検定を実施した結果、種や圃場により感受性に差異があることが明らかとなった。

【普及したい技術のポイント】

- ①ロビンネダニに対しては、スプラサイド乳剤(DMT P)、トクチオン乳剤（プロチオホス）が有効である。スプラサイドでは一部で薬剤感受性の低下が認められる。アクテリック乳剤(ピリミホスメチル)に対しては、薬剤感受性がやや低い。
- ②ネダニモドキ属の一種に対しては、スプラサイド、アクテリックが有効である。トクチオンは効果が認められない。

【研究成果の内容・留意点】

1. ロビンネダニに対する薬剤感受性検定

- ①スプラサイドのLC₅₀（薬剤処理により50%死亡する濃度（ppm）、数値が小さいほど殺虫効果の高い薬剤となる）は、8個体群のうち7個体群で1.6~25.9ppmと感受性系統の10.0ppmと比較して感受性の低下は認められないが、1個体群のLC₅₀が60.0ppmと感受性の低下が認められる（表1）。
- ②アクテリックのLC₅₀は、2個体群で164.6ppm、380.9ppmと感受性の低下が認められる（表1）。
- ③トクチオンのLC₅₀は、3個体群で11.7~25.9ppmと有効であった。（表1）

2. ネダニモドキ属の一種に対する薬剤感受性検定

- ①スプラサイドのLC₅₀は、5個体群のうち4個体群で7.7ppm以下と低いが、1個体群のLC₅₀が108.0ppmと高く感受性が低下していると考えられる（表1）。
- ②アクテリックのLC₅₀は、5個体群のうち4個体群で11.5ppm以下と低いが、1個体群のLC₅₀が188.5ppmと高く感受性の低下と考えられる（表1）。
- ③トクチオンのLC₅₀は、5個体群すべてで112.5ppm以上と高く薬剤感受性が低い（表1）。

3. 留意点

- ①ネダニ類による被害の発生する圃場では、発生種を明らかにする必要がある。発生種の判定は、普及指導員または、研究機関に依頼する必要がある。
- ②発生種に対応した薬剤を選択するとともに、薬剤処理後においても被害が発生する場合は、防除薬剤を変更する必要がある。

表1 ネダニ類に対する薬剤感受性検定（LC₅₀）

薬剤名\農家NO	LC ₅₀ : 50%の成虫が死亡する濃度(ppm)														
	ロビンネダニ										ネダニモドキ属の一種				
	1	2	3	4	5	6	7	8	S系統	1	2	3	4	5	
スプラサイド	25.9	5.1	1.6	15.3	1.2	23.3	11.2	60.0	10.0	7.7	108.0	1.6	>1.6	>1.6	
アクテリック	164.6	55.8	21.0	28.6	19.9	69.0	29.7	380.9	39.9	8.9	188.5	3.5	>11.7	11.5	
トクチオン	-	-	-	25.9	23.9	-	-	11.7	-	>112.5	>112.5	>112.5	>112.5	>112.5	

注) プロビット方により算出 S系統は、高知産薬剤感受性系統